

●ハナサナギタケ (*Isaria japonica*)

ハナサナギタケは、蛾の蛹や幼虫に感染し、地中の繭から子実体を発生します。薬効成分が多いため、蚕に胞子を感染させて子実体を形成させる人工培養も行われています。上写真の個体は、スズメガの蛹にハナサナギタケが感染して子実体を伸ばしたものです。

●赤きょう菌 (*Pbecamyces fumosorosus*)

赤きょう菌の子実体は、ハナサナギタケやコナサナギタケの子実体によく似ているが、若干紫色を帯び、顕微鏡で観察すると孢子(分生子)の形状が大きく異なっています。上写真の個体は、蛾の仲間の土繭内の蛹に感染し、繭の外部に子実体を伸ばしています。

●赤きょう菌の繭を開いて見ると…



土繭を切り開くと内部に球状の蛾の仲間の蛹が現れ、蛹の表面から子実体が伸びていました。子実体の先端部には粉状の胞子(分生子)が形成され、風で飛散します。現在、赤きょう菌を農業に害を及ぼす蛾の仲間の駆除に利用する研究が進められています。

●羽化の為に巣穴から出る瞬間に命を奪われたツクツクボウシの幼虫



羽化の為に巣穴から脱出しようとしていたツクツクボウシの幼虫が、自身に感染したツクツクボウシタケにより脱出寸前の所で命を絶たれ、その状態で子実体(キノコ)が成長したものだと思われます。

●甲虫の体節から子実体(キノコ)が生えてきているところ



苔の上に土にまみれた甲虫(ハムシの仲間か?)が転がっており、首や目の上部から白い子実体が生えていました。胞子を形成していないため、種の同定はできませんでした。

●虫カビの仲間



クモに生えたカビの仲間(種名不明)



カミキリムシに生えたボーマリアの仲間